

Title	三田史学の百年を語る 第一回座談会 一九九〇年六月一六日(土)
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1991
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.60, No.2/3 (1991. 6) ,p.9(183)- 10(184)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19910600-0009">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19910600-0009</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 三田史学の百年を語る

## 第一回座談会

一九九〇年六月一六日（土）

司会（高橋） 本年は文学部ができてからちょうど百年だそうでございます。そこで、本日と来週の二回、慶應義塾の史学科の古い卒業生の方々と長老にお出でいただきまして、慶應義塾の史学科の百年、三田史学会の百年につきまして、いろいろお話を伺おうと思っております。講演会という形ではなくむしろ座談会という形で、また後半はお集まりになっていらっしゃる皆様方を交えて、気楽な会を運営したいと思っております。

本日は大先輩の林基先生にはわざわざ三田までお越しいただき、また神山、河北、森岡の三名誉教授並びに速水先生にもご多忙の中をお出でいただきまして、どうもありがとうございます。

それでは、最初に三木会長からご挨拶を申し上げます。三木 三木でございます。先生方、ありがとうございます。

す。よろしくお願いいたします。

文学部開設百年ということで、三田史学会としてこういう企画を考えましてやってまいったわけですが、第一日、第二日のコーディネーター全体がこれをやるための小委員会をつくりまして、いろいろ相談してまいりました。その過程で一つ気がつきましたことは、きょうお話しただくかつての偉い先生方がいらした時代、その学問のスタイルなどが、いかにも塾的とでも申しますか、いまの大学のようにかたく制度化されていないで、自由闊達に、個々の先生方も、また先生方お互いの関係も、さらにそれはまた三田の中にとどまらず、外の世界とも縦横に結ばれています。その点で第二の特徴として、三田史学が近代日本史学全体の中で非常に重要な位置を占めてやってきているということは、準備の過程で実行

委員の間で、なるほど、そうだったんだということを確認いたしました。きょう長老の先生方からのお話の中で、おのずからそういったことが明らかになってくると思います。

それから、きょうこの場にお見えいただいている文学部長の小谷津孝明先生、ありがとうございます。この座談会の結果の記録と、それから『哲学』と『芸文』のほうでも、同様の百年を振り返る座談会をやりますので、すべて記録をあわせて、後に特集号にまとめたい、それできれば日吉の学生たちに読んでもらえるようなことを考えていきたい、小谷津先生はそうお考えなのです。そういうことでこの座談会が、大変みごとな三田の伝統が、次々に入ってくる学生諸君にも受け継がれる一つの機縁となればと思います。もちろん学問的に厳密に考えますと、きょうお話しただく一人一人の先生方について大変な研究をやっていないか、厳密な評価というのはできないわけです。しかし、とうていそこまではできないにしても、少くとも大きな流れを学生諸君などに感じ取っていただくと同時に、われわれ自身が史学史を振り返ることで、いまのわれわれ自身の学問を見直す、そういう機縁になればと思います。

以上、簡単ですが、ご挨拶にかえさせていただきます。司会（高橋）どうもありがとうございます。

きょうのこの会は、私のすぐ左におります西洋史の坂口昂吉さんと、私、国史の高橋正彦でございますが、この二人が司会、運営に当たってまいります。

なお、すでに皆様ご承知とは存じますが、きょうお出でいただきました講師の先生方と、お話を願うテーマを簡単に紹介申し上げます。

お話の順番で紹介させていただきます。まず最初のテーマは「草創期の三田史学」というテーマで、名誉教授の神山四郎先生と河北展生先生にお話を伺います。これに続きまして、「三田の国史学と幸田成友」というテーマで、林基先生にお話を伺います。三番目に、「三田派の経済史家」というテーマで、速水融先生にお話を伺います。最後に、「西洋史学の先学たち」につきまして、神山四郎先生、それから森岡敬一郎先生のお二方からお話を伺うことになっています。もちろんいまお名前を挙げました諸先輩のほかに、この間いろいろ大先輩が慶應義塾の史学科を出ております。こういう先生方につきましても当然触れられることと存じます。